

こんにちは ブラインテックです

第50回 社団法人日本看護協会 看護教育研究センター図書館 2009年2月

第50回目は、東京都清瀬市の社団法人日本看護協会看護教育研究センター図書館を訪問しました。図書館は1966年設立以来、40年以上にわたり看護協会会員を対象として生涯学習や研究・研修に必要な資料の収集・情報提供を行い、日本の医療や看護学を陰から支えてきました。また、著作権法第31条の図書館資料の複製が認められる施設として文化庁長官から指定を受けています。

豊かな自然環境に恵まれた静かな図書館を根岸准子図書館長にご案内いただきました。

——本日はありがとうございます。はじめに看護協会と図書館についてご紹介ください。

日本看護協会は戦後間もない1946年に創立された看護職の職能団体です。平成17（2005）年度の看護職の就業者総数は約130万人（*1）、そのうち約半数の約60万人が会員になっています。

図書館は、1966年に図書室として当時東京都渋谷区神宮前の看護協会内に設立され、1987年に看護研修センター（当時）図書館として清瀬に移転しました。当館の利用対象は看護協会会員で、職種は看護師・助産師・保健師の方々です。神戸にも研修センターがあり、図書室がありますが、規模が小さいため、神戸研修センターの受講生のみを対象とします。

教育研究センターは図書館のほかに、より専門性の高い認定看護師を教育する研修学校、認定看護管理者をはじめとする資格認定教育やステップアップ教育を行う教育研究部継続教育係、日本看護学会を運営する同部学会係があります。

図書館の来館者は年間のべ9,000人ですが、その多くはセンターで教育を受ける方です。文献検索が利用の中心になっていますので、館内に文献検索コーナーを設け、さらに、遠隔地や時間内の来館が難しい会員のためにデータベースやOPACをホームページで公開しています。

図書館の蔵書は図書約4万冊、継続購読雑誌は約600タイトルです。非常勤含めスタッフ7名（うち、司書6名）で運営しています。看護系のコアジャーナルはほとんど創刊号から保存している等、設立以来40年以上にわたって蓄積してきた資料が特徴です。さらに看護文献の索引誌である「最新看護索引」をデータベース化することでより一層、会員の利便性が高まったと感じます。

——最新看護索引のデータベースやOPACのデータは大変充実しており、初めて看護文献を検索する方にも使いやすいと感じました。

医療現場で活躍する看護職は大変多忙な合間を縫って研鑽に努めておられますから、当館のサイトは深夜・休日にもアクセス数が多いです。利用者の負担をできるだけ少なくするよう心がけて、文献検索の初級・中級者でも迷わず必要な文献に辿り着けるよう工夫しています。

データベースやOPACを公開してから来館者は減少傾向ですが、サイトアクセス増加とともに、郵送文献複写依頼は年間3千件から1万件以上へと実に約4倍に増加しました。

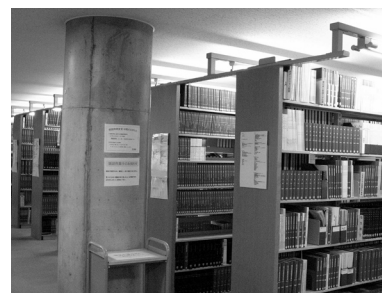
——時代に合わせて情報提供のあり方も進化してこられたのですね。ところで、図書の分類はどうされているのでしょうか。

看護系図書館で多く採用されている「日本看護協会看護学図書分類表」、いわゆる「N分類」を使用しています。N分類は、1978（昭和53）年頃に使用していた「日本看護協会図書室看護学分類表」という独自分類が始まりです。「日本看護協会看護学図書分類表」としては、初版を1996（平成8）年に出しています。2006（平成18）年3月に第2版ができました。当館では、以前は一般図書にNDCを併用していましたが、現在はすべてN分類を使



用しています。N分類は学問体系でなく書架分類ですので、汎用性が高く利用者にも使い勝手が良いのが特徴です。第2版で「災害看護」や「看護学基礎」の中項目に「基礎医学」などが追加されたことで、一般科目、共通科目の図書まで対応でき、小規模な図書館であればN分類だけで対応が可能になったと思います。

図書といえば、当館の利用者は雑誌文献のニーズが高いのですが、図書資料も活用して欲しいと考え、以前は2階書架にあった図書を1階書架の雑誌と入れ替え作業を行いました。大変でしたが、来館の受付時に、1階で図書が視界に入るようにして、それから2階の雑誌架へと利用者の動線を変えることで、図書も良く利用されるようになりました。



——図書ラベルに分類記号と登録番号を印字されているのは良いアイデアですね。

当館では、貸出利用者が会員に限定されているということもあり、図書にはバーコードラベルは貼付していません。そのかわり、図書ラベルの3段目に登録番号を印字していますので、貸出・返却手続きのときは図書ラベルを見ながら登録番号を打ち込んでいます。バーコードラベルを貼る手間もなく、利用者用の磁気カードを作る必要もなく、大変便利です。

——「情報館」をMS-DOS版の頃からご利用いただいて10数年経ちますが、ご感想はいかがでしょう。

さまざまなパソコン用図書館管理ソフトを検討した結果、コストパフォーマンスが良く発展性があるということで、1994年に「情報館」を導入しました。現在は「情報館v6」総合管理4台、館内OPACIIを1台とJopacを使用しています。神戸研修センター図書室では、「情報館」をスタンドアロンで使用し、清瀬とは月1回データを出力して共有しています。



「情報館」はバージョンアップのたびに利便性が増し、特に雑誌管理の使い勝手が向上しましたね。多くの機能がありますので、使っていない機能も今後試していきたいと思います。今は全国900か所以上のユーザーに使用されているということですが、サポートは充実していて電話でもすぐに対応していただけますし、満足しています。

——ありがとうございます。最後に、今後のご計画などありましたらお教えてください。

日々、調査研究のための図書館として、「そこに行けば欲しいものが手に入る図書館」にしたいと願っています。

また、現在整理中ですが、初代協会長の寄贈による井上基金設置特別資料室があり、ナイチンゲール「Notes on Nursing」初版本などを所蔵しています。歴史的資料を収集することも当館の使命だと考え、今後はさらに充実に努めていきたいと思っています。

——本日はありがとうございました。多忙な看護職の高度な専門性を支えるため、地道なデータの蓄積とともに、その提供方法も時代に合わせて創意工夫をされていることが印象的でした。清瀬の冬は館内も静かで、じっくりと調査研究に取り組むには良い季節のようです。ますますのご発展をお祈りいたします。

(*1) 平成19年度 看護統計資料集 (日本看護協会出版会 編集) <http://www.nurse.or.jp/toukei/index.html>

社団法人日本看護協会 看護教育研究センター図書館 Library Nursing Education and Research Center Japanese Nursing Association

〒204-0024 東京都清瀬市梅園1-2-3

電話：042-492-7466

協会：<http://www.nurse.or.jp/>

図書館：<http://www.nurse.or.jp/nursing/education/library/>

* 図書館の利用は、看護協会会員のみとなります。

その他の利用ご希望の方は、予めご連絡のうえ、所属図書館長の紹介状をご持参ください。

